

平成26年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 144	提案機関名 (社)神奈川県園芸協会(県果樹組合連合会)
要望問題名 ナシ萎縮病対策技術の確立について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 ナシ萎縮病の発生はここ数年続いており、広域に至っている。その要因の明確な解明はされていない状況であり、現場では対応に困惑している。根本的な要因、病原菌、栽培環境条件等を解明し、現場に即した対応技術の確立をお願いします。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術所 ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	果樹花き研究課
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 樹体ジョイント仕立てによる神奈川ナシ産地の持続的発展技術の開発 ア ナシ樹体ジョイント仕立ての栽培優位性検証 ウ) 萎縮病発生の可能性検証		
対応の内容等	ナシ萎縮病につきましては、(独)果樹研究所と千葉県農総研等が原因の一つとして考えられている材質腐朽菌を特定した段階で、治療法については共同研究が検討されている段階です。 当所でも H21 年千葉農総研より分譲の接種試験から検討を進めています。成木への処理については腐朽菌接種3年後についても萎縮葉症状の再現は認められませんでした。苗木への接種試験では、1/3～1/4 の割合で接種翌春に萎縮葉症状が再現されました。 今後はジョイント仕立て樹は主枝分岐部を持たず、主枝先端部の水分ストレスも少ない仕立ての構造から、萎縮症状が発生し難い栽培法として考えられるため、再現苗をジョイント仕立て樹の一部に組み入れ、ジョイント仕立て樹における萎縮葉症状の発生経過を継続調査し、慣行仕立て法では予防・治療が未解決な本病について、ジョイント仕立てにおける発生軽減の可能性を検討します。		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			